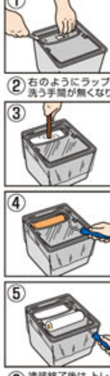
便利なローラートレイ付広口容器(特許取得済み)の使い方

この容器はローラーバケが直接入り、天面のトレイ部分で塗料をしごくことができる画期的な容器です。下記の使用方法にしたがってご使用下さい。使用するローラーバケはミドルローラーやスリムローラーが適しています。

使用方法 ●使用前に容器を前後によく振り、中の塗料を均一にします。(フタが開くおそれがありますので、注意して下さい)



① フタが容器の中に落ちないよう、フタについているつまみを持ちながら、フタの矢印のところと容器の角の間に、マイナスドライバーを差し込んでフタを開けます。フタの裏や容器の口の端に、半乾きの塗料がついていることがありますので、濡らしたウエスでふき取り、フタは保管しておきます。

② 右のようにラップでおおっておくと、洗う手間が無くなり後始末が簡単です。→

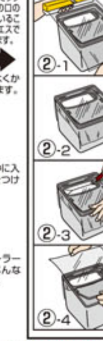
③ 棒などで容器の底までよくかき混ぜ、塗料を均一にします。

④ ローラーバケを容器の中に入れローラー部分に塗料をつけます。

⑤ 天面のトレイ部分でローラーを転がし、塗料をまんべんなくなじませて塗装します。

⑥ 塗装終了後は、トレイ部分や容器の口の周囲に付着した塗料をウエスなどでふき取り、軽くフタをした後、両手親指でフタの両端を強く押してフタを閉めます。
②のようにあらかじめラップをしておくと、ラップを捨てるだけでほとんど汚れずに後始末が簡単です。

容器をラップでおおう方法



②-1
サゲ手はトレイ部の方へ倒した状態で、ラップを容器の天面より大きめにカットし、缶の天面全体をおおいます。
(ポリ塩化ビニリデンのラップをお使い下さい)

②-2
ラップを容器の天面にフィットするように軽く押さえ密着させ、余ったラップを缶胴に巻きつけます。

②-3
容器の口の部分のラップにカッターナイフなどで切り込みをいれ、ローラーバケが入るようにします。カットしたラップは容器の口の内側へ巻き込みます。

②-4
サゲ手を持って場所を移動する時は、トレイ部のラップを容器の口の方へめくりあげてサゲ手を持って下さい。再度、塗装する時はサゲ手をトレイ部に倒しラップも元に戻して下さい。
中の塗料が半分以下になった場合、ローラーハンドルを入れたまま持ち運びすると、傾いた(約30°)不安定な状態になりますので、両手で支えて下さい。

使用上の注意

落下によりフタが開いたり、容器が変形することがありますので、容器の取扱いに注意して下さい。

アサヒペン

シルバー

塩害・サビに強いシルバーペイント

油性シルバーコート

Silver Coat

銀光沢　速乾タイプ

●この容器は多少大きめにつくってあります。中身の塗料は正確な量目入っています。
●表示してある色、ツヤおよび容器の中の塗料の色は、乾いてからの色と多少異なることがあります。

強力サビドメ剤配合

屋内外の鉄部・鉄製品

無鉛塗料 鉛・クロム化合物は使用していません。

使用方法・注意書きをよく読んでから使用して下さい。

標準塗り面積（1回塗り）	乾燥時間	塗り重ね時間の目安
71~85m² タタミ換算 41.4~49.6枚分	夏期/3~5時間 冬期/6~10時間	夏期/1日以上 冬期/2日以上

塗装用具は ペイントうすめ液で洗って下さい

うすめずに塗って下さい。

5L

アサヒペン

シルバー

塩害・サビに強いシルバーペイント

油性シルバーコート

Silver Coat

銀光沢　速乾タイプ

●この容器は多少大きめにつくってあります。中身の塗料は正確な量目入っています。
●表示してある色、ツヤおよび容器の中の塗料の色は、乾いてからの色と多少異なることがあります。

強力サビドメ剤配合

屋内外の鉄部・鉄製品

無鉛塗料 鉛・クロム化合物は使用していません。

使用方法・注意書きをよく読んでから使用して下さい。

標準塗り面積（1回塗り） 71~85m² タタミ換算 41.4~49.6枚分
乾燥時間 夏期/3~5時間 冬期/6~10時間
塗り重ね時間の目安 夏期/1日以上 冬期/2日以上

塗装用具は ペイントうすめ液で洗って下さい

うすめずに塗って下さい。

5L

商品名 油性シルバーコート　**品　名** 合成樹脂塗料

成　分 合成樹脂(石油樹脂)、油脂、顔料、有機溶剤

特　長

- ●たいへん塗りやすく、1回塗りで仕上がります。
- ●塩害に強く、強力サビドメ剤を配合していますので、サビの発生を防ぎ、長期間鉄製品を守ります。
- ●日光や雨に強く、美しい銀光沢の合成樹脂塗料です。
- ●光や太陽熱を反射するアルミニウムペイントです。

用　途

- ●鉄製の扉・門扉・フェンス・シャッター・パイプ・機械器具・農機具などあらゆる鉄部・鉄製品(食器など直接口に触れるものや玩具など誤って口に入れる恐れがあるもの、常時水につかるところや床、手や衣服が触れるところ、車のマフラーなど耐熱性が必要なところには適しません)

塗装方法

①●はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して十分に取り除きます。
　●塗る面のゴミや汚れ・カビを取り、十分に乾かします。油分やワックスはペイントうすめ液でふいてよく落とします。
②●塗料がついては困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③●右側の「便利なローラートレイ付き広口容器の使い方」に従って、塗装の準備をします。
④●うすめずにそのまま塗ります。
　●コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗ります。広い面積の部分はコテバケ・ローラーバケ・平バケなどを使うと、速く、楽に塗ることができます。
　●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、ペイントうすめ液かハケ洗い液で洗って下さい。ハケについている塗料を新聞紙などでしごき取ってから洗えば、ペイントうすめ液は少量で済みます。

保管上の注意

①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたずらをしないよう注意して下さい。
②残った塗料は、フタをし、直射日光や火気のある場所、容器がさびやすいところを避けて保存して下さい。

取扱い上の注意

1. 表示の用途以外には使用しないで下さい。
2. 火気のあるところでは塗らないで下さい。
3. 溶剤蒸気を吸入しないよう、目に入らないよう、また誤飲しないように注意して取扱って下さい。
4. 有機溶剤が含まれているので、塗装中・乾燥中ともに換気をよくして下さい。
5. 取扱い中は手袋などを着用し、皮膚に触れないようにして下さい。
6. 塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。
7. 塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気のよい日に塗って下さい。
8. あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、色・乾燥性・下地への影響・密着性などを確かめてから塗装して下さい。
9. 塗り面積・乾燥時間は、素材・塗り方・気象条件により多少異なります。
10. 塗り重ねる場合は、1日(冬期は2日)以上おいてからにして下さい。乾燥が不十分な場合、塗膜がシワ状に浮き上がることがあります。
11. 使用中に水が混入しないようにして下さい。誤って混入してしまった塗料は、廃棄して下さい。
12. 乾燥後も塗膜をこすると色落ちします。塗膜に触れたりして手や衣服に銀粉がつかないように注意して下さい。
13. 容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。
14. やむをえず塗料を捨てるときは、油性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
15. 塗料を移し替える場合は、金属などの溶けない容器をご使用下さい。

危険

●引火性あり ●皮膚刺激 ●アレルギー性皮膚反応のおそれ
●臓器の障害 ●呼吸器への刺激のおそれ
●眠気やめまいのおそれ ●水生生物に非常に強い毒性

救急処置

- ●目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ●誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ●蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。

第2石油類／危険等級Ⅲ／火気厳禁／合成樹脂エナメル塗料(S-039)

株式会社アサヒペン 大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp
お客様相談室 東京 03(3846)9545 大阪 06(6934)0300

日本製　(01-1104)